



みんなで記念撮影（後列左から田邊さん・上神田さん、前列中央が三好さん）

## 「アカリ」について知ろう 国見ジュニア応援団

令和3年度チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業「国見ジュニア応援団」の第6回活動が行われました。

活動では学びの複合施設アカリを訪問し、家守舎桃ノ音代表の上神田健太さん、地域おこし協力隊の三好菜月さんと田邊愛恵さんから話を聞きました。

子どもたちはアカリが作られた目的や放課後塾ハルの話を熱心に聞き入り、積極的に質問をしながら学んでいました。

その後はiPadを使い、アカリ紹介動画の作成に取り組みました。慣れない動画編集に四苦八苦しながらも、徐々にコツをつかんだ様子で一懸命取り組みました。

## 宝くじ文化公演



2022年  
2月2日水 開演18:00 開演18:30 国見町親月台文化センター

宝くじの助成により、特別料金になっています。  
全席指定 (当日2,500円) ※未就学児の同伴、入場はご遠慮ください。  
※前売で完売の場合、当日券の販売はありません。

主催：国見町／国見町教育委員会／(一財)自治総合センター

新売開始 12/4 9時

### 秋の野外活動 少年仲間づくり教室

少年仲間づくり教室第7回活動は、11月13日に福島市「小鳥の森」で教室生27名が参加し、自然体験を行いました。

自然観察は、レンジャーの案内により「シジユウカラの小径」を散策。落ち葉やドングリ、小鳥の巣箱、キツツキの巣穴などを観察。見晴らし台からは阿武隈川の親水公園を見渡し、白鳥の飛来情報などを興味深く聞きました。

木工クラブでは、ネイチャーセンター職員の説明を聞き、松ぼっくりやドングリを使って、「松ぼっくりツリー」を作りました。

教室生は、それぞれの感性でさまざまな作品を作り上げました。

好天に恵まれ、秋の野外活動を楽しむことができました。



みんなで楽しく「小鳥の森」を散策しました

### 町長就任から1年を振り返って 三学級合同学習「町長講話」

阿津賀志学級成人学級・くにみ女性教室合同の三学級合同学習「町長講話」が11月11日、親月台文化センターで開かれました。引地真町長が、人口減少や少子高齢化が進む町の活性化に向けて、町長就任から1年を振り返りました。

町長は、企業誘致や若者の定住、農業の活性化など町が抱える問題を具体的に説明し、協力し合いながら町づくりを進めていきたいと話しかけました。



就任後の1年を振り返る引地真町長



秋空のもと健脚を競いました

上野台運動公園を基点とし、6区間12.4kmを駆け巡る第45回国見町駅伝競走大会が10月31日に開催されました。今大会は12チームが出場し、各チームが優勝を目指して紅葉が映える上野台運動公園周辺のコースを力走しました。レースは首位が何度も入れ替わる接戦となり、「伊達消防」が大接戦を制し優勝しました。

- ◆優勝…伊達消防 (46分19秒)
- 準優勝…藤田B (47分56秒)
- 第3位…大木戸スポーツ振興会弁慶チーム (49分13秒)
- ◆区間賞…①菅野達朗 (伊達消防)  
②武田実梨 (藤田A)  
③勝山智博 (藤田A)  
④田口幸一 (佐川急便)  
⑤佐藤裕紀 (大木戸弁慶)  
⑥横山元基 (伊達消防)



親子で楽しんだ「お買い物すごろく」

地域学校協働本部事業「親子で学ぶキッズマネー教室」が11月3日に行われ、小学生親子7組15名が参加しました。



教室では、知るポルト福島のアインナンシャルプランナー田崎由子氏を講師に招き、決められた予算の中で必要なものを購入していく「お買い物すごろくゲーム」や、お金をテーマにした「びまる子ちゃん」のDVD鑑賞を行い、親子で楽しくお金の大切さについて学習しました。

## 親子で学ぶキッズマネー教室

お金の大切さについて学びました



国見町教育委員会生涯学習課  
(親月台文化センター)  
☎(585)2676 FAX(585)2707  
E-mail shogai@town.kunimi.fukushima.jp  
https://www.town.kunimi.fukushima.jp/site/kangetsudai/

## リュッケじかん LYKKE 時間

### 第33話「穏やかなクリスマスの時間」

12月にフィンランドの保育園を訪ねた時、先生方が園内のクリスマス部屋へ案内してくれました。薄暗いその部屋は椅子と机、もみの木が置かれた、静かな空間でした。赤や緑の華やかな飾りに慣れていた私が装飾の物足りなさを伝えると、先生方は「子ども達が落ち着いてクリスマスを迎えるには十分よ!」と笑顔で話してくれました。別の機会に、フィンランドの友人にクリスマスの過ごし方を聞いてみると、やはり「落ち着けるかどうかが大事よ!」という言葉が返ってきました。穏やかさを愛でるフィンランドらしい、クリスマスの過ごし方です。



フィンランド 国際空港内のクリスマスキャビン

文：柴田千賀子 (国見町出身の保育研究者。仙台大学教授)